

三好長慶を主人公とした
NHK大河ドラマ制作の要望書

戦国時代といえ、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三英傑が有名ですが、これは江戸時代後期の認識です。戦国時代を生き抜いた人々が多く残っていた江戸時代初期に「三英傑に先駆けた天下人」と評価されていたのが、現在の徳島県に生まれ、大阪府に居城を置き、京都を中心とする「天下」を支配し、近畿地方と四国地方を平定した三好長慶でした。長慶については、

① 三好実休（謀将）・安宅冬安（仁将）・十河一存（勇将）
といった個性豊かな兄弟と力を合わせ、戦国の荒波を乗り越えていったこと

② いまだ多くの戦国大名に支持されていた室町幕府に代わり、戦国時代で初めて足利將軍家を擁立しない中央政権を樹立したこと

③ 懈怠する將軍に代わって、後奈良・正親町の二代の天皇を支え、その信頼も篤かったこと

④ 独自に東アジアと交易ルートを持つ法華宗や禅宗を保護し、天皇と共に明王朝（中国）の使節に対応、鉄炮の早期導入やキリスト教公認など、国際情勢に敏感に対応したこと。そうした功績が、中国やヨーロッパから高く評価されていたこと

⑤ 村落の生活が成り立つように用水など生活基盤に関する裁判を行い、現在でも地域住民に慕われていること

⑥ 家柄や身分にかかわらず、松永久秀などが有能な人材を抜擢し、家臣もそれに応え忠節を尽くしたこと

⑦ 連歌師の谷宗養や、茶人の千利休と繋がり深い辻玄哉などと交わり、伝統的な文化も新興の文化も尊重した当時屈指の教養人であったこと

などが、実証的に明らかにされています。近年の戦国時代を題材にした「真田丸」や「麒麟がくる」は、豊かな脚色を加えながらも、歴史学の成果を踏まえていたことで好評を博しました。「三好長慶」もそうした趣旨に合致するものと考えます。

長慶が活躍した近畿地方と四国地方は、二〇一〇年に特別地方公共団体「関西広域連合」を設立し「広域観光・文化・スポーツ振興」に取り組んでおり、二〇二五年大阪・関西万博でも「悠久の歴史・文化を誇る大阪・関西が異なる文化との交流を通じて、さらに豊かなものとなる」ことを謳っています。このように両地域は一体となって盛り上がる土壌がある上、万博の理念も長慶の目指したものと同じです。

長慶の領国経営の特徴は、政治的機能と経済的機能を分ける多極分散型でした。また浄土真宗・法華宗・キリスト教といった宗教勢力の保護を通じ、民間活力を活用したまちづくりを推進しています。これらは、一極集中の弊害を解消する首都機能移転問題や、自然災害に対する危機管理のあり方にも一石を投じるものです。主要都市で機能を分担し、特徴ある都市群を形成する政策は、ドイツやアメリカなどで採用されており、これからの持続可能な社会の発展を考える一助になります。

長慶の人物像は連歌より伺えます。その連歌は思慮深く、より練られて上品であったと評されています。また、信長のように敵を女子供構わず殲滅せず、父の仇である主君や自身の暗殺を企てた將軍でさえも許す寛容さが魅力の一つです。そして、長慶が裁判を行った地には四五〇年以上経った現代においても祠があり、地元の庶民から「地域の権利を保障してくれた偉人」として、大切に祀られています。現在はSNSによる誹謗中傷や、社会全体の不寛容性が大きな問題となっていますが、こうした現代だからこそ、理世安民の心と敵将からもその所作を見習いたいと称賛された長慶の精神性に学ぶことができます。

三好氏の活躍を支えた人物に、阿波出身で京都において金融業を営む阿古女や、宮廷行事に精通した広橋保子などの女性がいます。過剰な脚色や架空の人物を用いることに批判が多い中、戦国時代に生きる等身大の女性を描くことができ、性別に関係なく楽しめるドラマになると確信します。また、武将だけでなく、長慶の連歌会に集った連歌師・茶人・商人・

宗教者をはじめ、長慶の裁判を求めた庶民、長慶と面会したアジア人やヨーロッパ人を描くことで、日本の戦国時代が持つ多様性を示すことができます。

行き詰まる日本と激変する世界の中、戦国時代のゲームチェンジャーとなった長慶に注目することにより、従来のようなステレオタイプではない、新たな戦国時代像を提示することができ、そのことにより現代社会を見つめ直すことが出来ると思います。これは大河ドラマが単なる娯楽に止まらず、常に放映当時の日本社会の様相や問題、そして日本人の価値観や理念を映し出してきたドラマである事を鑑みると、長慶を題材とした大河ドラマは、正しく時宜を得たものと考えられます。

私達は、以上の趣旨により「三好長慶を主人公とした大河ドラマ」を御制作いただきます様、謹んで要望いたします。

令和四年 五月二五日

NHK大河ドラマ誘致推進協議会

会長 岡本 富治 印

三好長慶NHK大河ドラマ誘致推進協議会（関西）

会長 邊見 公雄 印

日本放送協会会長 前田 晁伸 様